

常磐地区の「これまで」と「これから」

じょうばん街工房 21

会 長 小泉 智勇

事務局長 渡邊 大輔



はじめに

じょうばん街工房21とは、、、

14市町村が合併して誕生したいわき市の中でも、いわき湯本温泉郷やスパリゾートハワイアンズが位置する常磐地区（旧常磐市）のエリア。いわき市の「へそ」の位置。

いわき湯本温泉郷の歴史とともに、旧常磐地区振興会時代から脈々と続く地域づくり活動を行っている団体です。

個人会員 32人

企業会員 46社

連携団体 4団体 いわき湯本温泉旅館協同組合

いわき湯本温泉観光協会

いわき商工会議所

（一社）いわき観光まちづくりビューロー（DMO）

支援団体 2団体 NPO法人湯本川を愛する市民ネットワーク

鶴のあし湯を愛でる会

今日のおはなし

- 1 . 支援団体「鶴のあし湯を愛でる会」
設立の経過と現在の取り組み
- 2 . いわき市とのパートナーシップ協定に
もとづくまちづくり
- 3 . これからの取り組みと覚悟

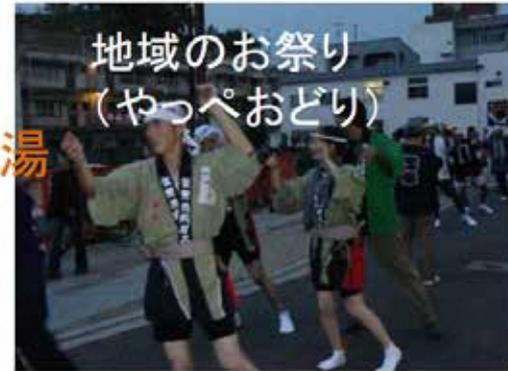
1 . 支援団体「鶴のあし湯を愛でる会」 設立の経過と現在の取り組み



1. 支援団体「鶴のあし湯を愛でる会」 設立の経過と現在の取り組み

◎施設名称

常磐湯本交流拠点広場 鶴のあし湯



◎場所

福島県いわき市常磐湯本町

◎目的

地域コミュニティの場
来訪者への情報発信の場
→交流拠点広場として整備

◎供用開始

平成18年 3月18日



元気ふくしま、地域づくり・交流促進事業との出会い

① ポケットパークのコンセプトづくり

ポケットパークで何を実現したいか、じょうばん街工房21、いわき湯本温泉旅館協同組合、いわき湯本温泉商店会連合会を中心に、地域住民を含めた協議が始まる。

じょうばん街工房21が掲げる「7つの足湯構想」をベースとして、足湯をコンテンツの核とした交流空間を実現したい。

じょうばん街工房21が中心となって

「足湯のあるポケットパーク実行委員会」を組織

元気ふくしま、地域づくり・交流促進事業との出会い

② 候補地の選定

いわき湯本温泉郷の新たなシンボルとなることから、温泉旅館街との連携しやすいいわき市常磐支所周辺からJR湯本駅までの間の主要地方道いわき石川線・常磐勿来線の沿線で候補地を選定。

- ・ 地権者の情報や抵当権設定の有無など詳細にわたる情報を収集し、維持管理にあたる各商店会の意見も取り入れながら候補地を絞り込んでいった。

じょうばん街工房21・いわき建設事務所との協働

元気ふくしま、地域づくり・交流促進事業との出会い



計画の策定にあたっては、地元のまちづくり団体や商店街、温泉組合と意見交換会を10回程度開催し何度も議論しました

意見交換会

「足湯のあるポケットパーク実行委員会」の取組み

1 . 先進地視察（那須塩原温泉・瀬波温泉）

温泉旅館街を回遊する仕組みとして足湯のあるまちづくりに取り組んでいる先進地を視察。



ポケットパークの使い勝手や維持管理方法、旅館街との連携について研究。

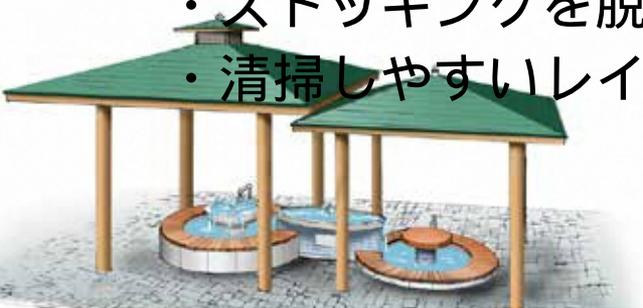
じょうばん街工房21・いわき湯本温泉旅館女将の会・夢わくわくゆもと市民会議が参加。

「足湯のあるポケットパーク実行委員会」の取組み

1. デザイン部会を組織

図面や模型によりポケットパークの使い勝手の詳細を検討。

- ・ イベント開催時のテント位置に合わせたアンカー設置
- ・ ユニバーサルデザインの観点を取り入れた足湯の整備
- ・ ストッキングを脱げるよう簡易更衣スペースの設置
- ・ 清掃しやすいレイアウトや清掃用具の設置個所の検討 など



「足湯のあるポケットパーク実行委員会」の取組み

1. デザイン部会

工事施工中、現地での使い勝手検証。



実際の足湯やステージの位置をみんなで確認し、実際の高さや使い勝手を検証。

新しい交流拠点から見える風景を体験した。

支援団体「鶴のあし湯を愛でる会」設立

設立：平成18年2月25日

目的：鶴のあし湯の維持管理を目的とする管理協定の締結
利用促進に資する協同宣伝、各種イベントの実施

福島県・いわき市・愛でる会 三者による管理協定の締結

管理協定における会の役割

- ・ 清掃美化等の日常的な維持管理
- ・ 上下水道、温泉及び電気料金の負担
- ・ 地域振興ための利活用



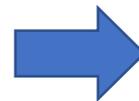
管理協定調印式の状況

「鶴のあし湯を愛でる会」の活動

関連する3つの商店会と地域のボランティア組織による毎週木曜日の清掃活動。



心無い利用者が施設を破壊したり、カップ麺の残りを捨てていくなど、心折れそうなこともあります。



湯花の汚れや藻が繁殖するため、週1回の清掃が必須。

直面した課題・・・

居心地の良さから、深夜の利用者も増えたことで、周辺住民から騒音などの苦情が寄せられる。



飲んだ後の足湯・手湯は非常に好評で、多くの人が集まってしまいました。



周辺住民の方と何度も話し合いを持ち、利用時間を午前7時から午後10時までとしました。県では、18年度に時間タイマーを設置し、利用時間以外お湯が出ないように改修して下さいました。

直面した課題・・・

その日の天候などの条件によって、足湯の温度調整が非常に難しく、クレームなどに繋がりました。



2つの足湯を「あつ湯」と「ぬる湯」として使い分け。

完成後の利用状況調査や利用者からの意見を聞くために設置したノートにも、温度が熱くて入れなかったという声があがる。



愛でる会からの相談に対して、福島県では平成21年度に、センサーによる温度調整が可能な制御装置を設置して下さり、天候等に左右されずに快適な入浴が可能に。

鶴の足湯の様々な使われ方

各種イベントや活動発信の場として十分に機能しています。



温泉とフラをコンテンツとしたものや、地域の青年会による夏祭りなど、様々なイベントを開催しています。

ツールドいわきの際には、エイドステーションとしても活用されました。



鶴の足湯の様々な使われ方

各種イベントや活動発信の場として十分に機能しています。



東日本大震災の直後には、ボランティアによる炊き出しと支援物資を配布する拠点として利用されました。



校外授業で訪れた小学生たちと地元老人会による交流事業などが行われます。

地域の宝となった「鶴の足湯」



H29年、毎週木曜日の清掃を10年続け、地域住民と行政と一緒に地域資源となった「鶴の足湯」を守り続けたことが評価され、国土交通大臣より表彰を受けました。

2 . いわき市とのパートナーシップ協定に もとづくまちづくり



はじめに

手を取り合い、
安心して暮らせる
ホットする
まちをつくらう

常磐湯本地区

グランドデザイン

夢わくわくゆもと市民会議

平成 16 年 3 月

地域の課題を整理

6) みんなでつくる人と情報のたまり場

プロジェクト/主な地域：湯本駅前周辺

○目的：人々の交流の場と機会を増やそう

- ・ゆもとのまちも急速な少子高齢化が進んでおり、来訪者も少しずつ減ってきています。こういう時期こそ、市民のふれあいを大切に、市民と来訪者などの交流の機会を設け、元気な人とまちをつくりだしていく必要があります。
- ・その交流を促すためにも、駅前周辺の土地を有効活用し、行き交う人が語り合い、ゆったりとした時間を過ごし、あたたかい気持ちになれるたまり場づくりを進めます。

○現況：交流の場、たまり場が全くない

まちなかの案内機能が不十分
人通りや活気が感じられない駅周辺

- ・駅やその周辺に来て「これが温泉のまち」と思える風情が全くなく、週末でも観光客、来訪者があまり歩いていません。
- ・市民同士のふれあいの場、市民と来訪者が交流する場所が不足しています。また、地域の土産や特産物などもあまり目に付きません。
- ・駅前に観光客へのまちの案内機能がありません。
- ・郊外大型店進出の影響により、商店街、商店会組織などの活気が薄れ、空き店舗が増加しています。（規制緩和の弊害が顕著です）

○課題：交流の場づくり～市民と来訪者の交流の促進

案内機能の整備、拡充と空き店舗の利活用

- ・市民同士、市民と来訪者が出会う場、接する機会をつくる必要があります。
- ・温泉に親しむことが出来る公園や多機能な交流拠点を早急に整備する必要があります。
- ・駅周辺を中心に不足している、まちなかへの案内機能の拡充が求められます。
- ・駅前の商店の一部がその機能を果たしていますが、この考え方をまちなかへ拡大していくことで、人々の交流を促していく必要があります。
- ・まちなかの空き地や空き店舗の利活用を促していく必要があります。

○方策：駅前周辺に複合機能を持った拠点の整備

- ・駅前の遊休地を活用し、温泉に親しむことが出来る公園や、人々が集う小規模で多機能な交流拠点を整備します。
- ・この交流拠点には観光案内、情報の受発信、地域製品の販売・紹介などのコーナーを設置し、住民票の発行などの行政サービスの一部も提供します。
- ・また、生涯学習、子育て支援、高齢者・障がい者福祉などの一部をまかなうコミュニティ機能や飲食、娯楽コーナーの設置も検討して行きます。
- ・この拠点施設は、1カ所大規模な施設を設けることだけでなく、数カ所で役割を分担する事も考えられます。
- ・また、この拠点は市民で維持管理運営に携わっていく体制も整えていきます。

○実現に向けての課題・関連する組織など

- 市民間のコミュニケーション不足
- ・交流拠点の設置に向けては、市民や民間組織、市民団体が、一致団結し一丸となって、このまちを活性化するための働きかけをする必要があります。
- ・そのためには、市民とゆもとのまちづくりに携わる全ての団体、行政が一体となり推進する必要性があります。

東日本大震災を経験して 改めて課題を整理

いわき市都市計画マスタープラン

- Iwaki City Urban Planning: Master Plan -

常磐湯本地区 まちづくり計画

- Town Planning of Joban-Yumoto (Spa Town) Area -

手を取り合い、安心して暮らせる、ホットするまちを目指して
Working Hand in Hand Towards a Peaceful and Relaxing Town



平成 29 年 7 月改訂

July 2017, Revised Edition

いわき市

Iwaki City

④元気あふれる交流空間づくり

まちづくり方針

1. 幅広い集客の場づくりによる活力向上
2. 市民を中心とした交流による活力向上

1. 幅広い集客の場づくりによる活力向上

人の集散拠点である湯本駅前前の低利用地の利活用や、温泉旅館など既存施設の活用により、地域住民と観光客の交流を含めた集客拠点機能を持つ施設やコンベンションスペースなどを整備することで、人のまちなかへの滞留を促すとともに、市街地の活力向上を図っていきます。

まちづくり事業

人が集まるまちなか拠点づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○ 老朽化した市営住宅（天王崎同地及び吹谷同地）の用途廃止後の跡地や遊休地などを含む駅前地域での新たな集客拠点機能の整備を推進していきます。 ○ 空地を利用し、芝生の整備やコンテナを活用した気軽な図書サービスやカフェなどの人が滞留する空間づくりなどを進めます。
イベントスペースづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○ まちなかで、屋外ライブやフラダンス、体験型イベントなどができるイベントスペースを整備し、まちの賑わいの場として活用・運営していきます。
観光交流施設の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新たに開通した湯本跨線橋や、(都)台山水野谷町線等による国道 49 号とのアクセス性の改善も踏まえ、幹線道路網を活用した観光交流の拠点施設を整備し、運営していきます。
会場の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○ 温泉旅館や温泉利用健康増進施設(ゆったり館)、「ウッドピアいわき」等の既存の建物を活用し、会議などができる会場スペース、サロン等を整備し、温泉宿泊コンベンションの需要を開拓します。

再生が望まれる駅前付近



誰も見向きもしなかった駅前の緑地に注目



誰も見向きもしなかった駅前の緑地



自分たちで好きなように使って収益を上げたい
収益を上げてまちに再投資する仕組みを作りたい

「あの緑地ください！」



当然、貰うことは出来ませんでした

湯本駅前緑地協議会の立ち上げ

じょうばん街工房 2 1 による維持管理活動の始まり

誰も見向きもしなかった駅前の緑地に注目



誰も見向きもしなかった駅前緑地の変化

毎週の清掃活動に加え
市からの委託事業費で
フリーWi-Fiを開通



寂しいのは変わらず

大きな声では言えないが...

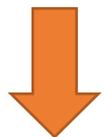
(勝手に) **パラソル・テーブル設置**



寒々しい空間

大きな声では言えないが...

(勝手に) **人工芝を設置**



結構イイ感じ

市の創生推進課からワーケーションの
スポットとして活用したいと要望あり

結果！
人工芝面積増加 + ヤシの木が生えた



**地域の交流拠点へ
昇格!!!**

市営住宅 天王崎団地の解体が進む



解体後～まちびらき間の暫定利用の検討



R3年度 第4四半期より 社会実験開始